

伊方1号機ストレステスト報告書に係る正誤表

4.1 地震

添付 - 4.1.8 (14/20) 補足 クレーン (落下による波及的影響) [4 - 1 - 232 頁]

正	誤
添付 - 4.1.8 (14/20) 補足③ 1. 格納容器ボークレーン (1) クレーン本体 ボークレーンは、浮き上がり防止装置により、クレーンが浮き上がり、脱線することがない構造としているが、仮にこれが破損した場合でも、旋回レールが設置されているリングガードより、クレーンガードの方が大きいので、クレーンが落下することはないと考えられる。(伊方1号機の寸法を下記に示す。) よって、当該クレーンは評価対象設備として取り扱わないものとする。 ボークレーンが水平移動した場合、以下の図より、クレーンが建屋との隙間分移動した場合においても 90mm の掛かり代があり、クレーンが下部に落下することはない。 断面 A-A ボークレーンが水平移動した場合のイメージおよび寸法図	添付 - 4.1.8 (14/20) 補足③ 1. 格納容器ボークレーン (1) クレーン本体 ボークレーンは、浮き上がり防止装置により、クレーンが浮き上がり、脱線することがない構造としているが、仮にこれが破損した場合でも、旋回レールが設置されているリングガードより、クレーンガードの方が大きいので、クレーンが落下することはないと考えられる。(伊方1号機の寸法を下記に示す。) よって、当該クレーンは評価対象設備として取り扱わないものとする。 ボークレーンが水平移動した場合、以下の図より、クレーンが建屋との隙間分移動した場合においても 90mm の掛かり代があり、クレーンが下部に落下することはない。 断面 A-A ボークレーンが水平移動した場合のイメージおよび寸法図 誤記

4 . 1 地震

添付 - 4 . 1 . 8 (15/20) 補足 クレーン (落下による波及的影響) [4 - 1 - 2 3 3 頁]

正	誤
添付－4．1．8 (15/20) 補足③ ポーラクレーンがリングガーダの開口部から落下するためには以下の図のように斜めに浮き上がりが発生した場合が考えられるが、単純に評価した場合でも浮き上がり量が約7.5m 必要となり、Ss 地震評価でも最大浮き上がり量は0.8mm 程度であり、十分な余裕がある。(実際には建屋との干渉もあり、浮き上がりは制限される) ポーラクレーンが浮き上がった場合のイメージおよび寸法図	添付－4．1．8 (15/20) 補足③ ポーラクレーンがリングガーダの開口部から落下するためには以下の図のように斜めに浮き上がりが発生した場合が考えられるが、単純に評価した場合でも浮き上がり量が約7.5m 必要となり、Ss 地震評価でも最大浮き上がり量は0.8mm 程度であり、十分な余裕がある。(実際には建屋との干渉もあり、浮き上がりは制限される) ポーラクレーンが浮き上がった場合のイメージおよび寸法図 誤記